

## 言語発達遅滞の評価と指導

東京学芸大学  
藤野 博

1

## ことばの遅れ

- 知的発達の遅れによるもの
- 自閉スペクトラム症(ASD)によるもの
- 聴覚障害によるもの
  
- 以上を原因としない言語発達障害

「話す、聞く等言語機能の基礎的事項に発達の遅れがある」(文部科学省、通級による指導の手引)

2

## 言語発達障害

- 言語症(特異的言語発達障害)
  
- 社会的(語用論的)コミュニケーション症

3

## 特異的言語発達障害

Specific Language Impairment: SLI

- 言語テストの得点が同年齢児の平均値より1.25標準偏差以上低い
- 動作性知能は正常範囲 (IQ85以上)
- 社会的相互作用の問題がない
- 聴覚障害がない
- 発声発語器官の形態的・機能的異常がない
- 神経学的徴候がない

Leonard, L.B. (1998) Children with Specific Language Impairment. MIT Press.

4

## SLI児の予後

- 4歳時にSLIの診断 → 5歳6ヶ月時に過半数に問題が残存 → 8歳6ヶ月時でも遅れが残存  
(Bishop&Edmundson,1987)
- 4歳4ヶ月時にSLIの診断 → 5年後に話しことばとともに読みの問題あり (Tallal et al.,1988)
- 6歳時にSLIの診断 → 4年後に約8割の子どもは話しことばとともに読みに顕著な問題あり  
(Stark et al.,1984)

5

## ASDの言語の特徴

### エコラリア(反響言語)

- 他者の発話をおうむ返しに反復して表出する現象
- DSM-5には自閉スペクトラム症の行動、興味、活動の限定された反復の様式の一例として記載されている
- 他者の発話に続いて即座に表出される「即時エコラリア」と、一定時間が経過した後に表出される「遅延エコラリア」がある
- ASDのエコラリアのなかには他者に向けたコミュニケーションの機能を有する場合があり、理解や伝達意図がない段階からコミュニケーション機能を有する段階へと発達していく

6

## 語用論とは

- 機能的知見からの言語の使用
- 言語と文脈の関係 (Levinson,1983)
- コミュニケーションにおける**言語使用の問題**を取り扱う
- 話し手が言葉を使うことで何を行おうとするか
- 聞き手がそれを文脈と照らし合わせてどう解釈するか
- 話し手と聞き手とが互いにどう話し合っているか  
(大井,2001)

7

## 語用論の問題

- **意図理解**
  - 話者の語る言葉の表面的な意味を超え、その背景にある意図を把握することが難しい
- **情報伝達**
  - 相手の知識に応じた質問や話題の提示が難しい
- **丁寧さの調節**
  - 場面や相手に応じて話し方を変えるのが難しい

8

## 会話の問題

- 話すときに聞き手の注意を得ず、独り言のように誰に話しかけているかわかりにくい
- 一方的に質問をし続けたり、相手にすでに質問し答えてもらったことを繰り返し質問したりする
- 相手の話に合わせて話題を維持することが難しく、相手がまだ話しているのに割り込み、自分が話したいことを一方的に話す
- 相手の話を聞いていない
- 相手の聞き返しにわかりやすく言い直すことができない

9

## 「ナラティブ」とは？

「語り」

以下のような特徴をもつ (Fivush, 1994)

- 出来事が時間的、因果的につながられている
- そのことへの考えや気持ちが述べられている

「○○したら、○○になったから、○○だと思った」

原因 → 結果 → 気持ち

10

## ASD児のナラティブの問題

- ASD児は、時間・因果・意図に関する表現が乏しく、中心となるテーマの説明が不足している
  - 経験をナラティブ形式にまとめる力に弱さがある
- 接続詞などを用いて出来事をつなげることができるが、一貫性をもった語りにならない
- 聞き手の理解を助ける特別な効果を加えられない、声色を変えてセリフを言うなどの工夫が少ない

11

## ASD児のナラティブの特徴

- ASDをもつ人々の物語は全体的な意味よりも部分的な詳細や視覚的な情報にフォーカスする傾向がある
  - Diehl, J.J., Bennetto, L., Young, E.C. (2006) Story recall and narrative coherence of high-functioning children with autism spectrum disorders. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 34, 83-98.
- 心的な状態の記述や登場人物間での視点の変更が困難である
  - Capps, L., Losh, M. & Thurber, C. (2000) "The Frog Ate the Bug and Made his Mouth Sad": Narrative Competence in Children with Autism. *Journal of Abnormal Child Psychology*, 28, 193-204.

12



13

- ### 語彙理解の検査法
- PVT-R(絵画語い発達テスト)
    - \* 適用年齢: 3歳0ヶ月～12歳3ヶ月
  - ITPA (言語学習能力診断検査)
    - ことばの理解
      - \* 適用年齢: 3歳0ヶ月～9歳11ヶ月
  - S-S法 (国リハ式言語発達遅滞検査)
    - \* 適用年齢: 1歳6ヶ月～6歳11ヶ月

14

- ### 語彙表出の検査法
- ITPA (言語学習能力診断検査)
    - ことばの表現
      - \* 適用年齢: 3歳0ヶ月～9歳11ヶ月
  - S-S法 (国リハ式言語発達遅滞検査)
    - \* 適用年齢: 1歳6ヶ月～6歳11ヶ月

15

- ### 文理解の検査法
- J.COSS日本語理解テスト
    - \* 適用年齢: 3歳6ヵ月～成人
  - S-S法 (国リハ式言語発達遅滞検査)
    - \* 適用年齢: 1歳6ヵ月～6歳11ヵ月

16

## 文表出の検査法

- ITPA (言語学習能力診断検査)
  - 文の構成
    - \* 適用年齢: 3歳0ヶ月～9歳11ヶ月
- S-S法 (国リハ式言語発達遅滞検査)
  - \* 適用年齢: 1歳6ヶ月～6歳11ヶ月

17

## 平均発話長(MLU)

- 一文を構成する形態素数の平均値
    - 語数、文節数で代用も可
  - 文表出力の指標となる
  - 少なくとも50発話のサンプリングを行う
- 【例】
- あめ が ふつ た (形態素数: 4)
  - かさ を さす (形態素数: 3)
  - MLU:  $(4 + 3) \div 2 = 3.5$

18

## 総合的な言語発達検査

### LCSA学齢版 言語・コミュニケーション発達スケール

- 口頭指示の理解
- 聞き取りによる文脈の理解
- 音読
- 文章の読解
- 語彙知識
- 慣用句・心的語彙
- 文表現
- 対人文脈
- 柔軟性
- 音韻意識

適用年齢: 小学校1年～4年生

19

## 語用のアセスメント

- テストによるアセスメントでは、音韻・形態・統語など言語の形式的側面の能力は評価しやすいが、**語用**や**会話**については実態に即した評価が難しい
- 語用や会話の問題を含め、子どもの音声言語の問題を包括的に評価できるアセスメント・ツールとして Bishop (1998)は「**子どものコミュニケーション・チェックリスト (Children's Communication Checklist: CCC)**」を開発した
- CCCは、言語・コミュニケーション障害の有無と、その特徴が **SLI** 的か **ASD** 的かを判別できる
- 大井らはその第二版の日本語版を作成・標準化した

20

### 子どものコミュニケーション・チェックリスト

(Children's Communication Checklist: CCC, Bishop)

A) 音声 B) 文法 C) 意味 D) 首尾一貫性	構造(形式)面
E) 場面に不適切な話し方 F) 定型化されたことば G) 文脈の利用 H) 非言語的コミュニケーション	語用(使用)面
I) 社会的関係 J) 興味関心	自閉症の特徴

> **GCC**: 総合的な言語コミュニケーションの指標 (A~Hの評価点合計)  
 > **SIDC**: 対人的関わりの指標 ((E+H+I+J) - (A+B+C+D))

21


### 自然な状況でことばを教える方法

- **パラレルトーク(代弁)**
  - > 子どもの興味の焦点に合わせことばを発する (子どもの考えや気持ちをことばにする)
  
- **エキスパンション(拡張模倣)**
  - > 子どものことばを拡げて返す
  
- **リキャスト**
  - > さりげなく正しく言い直して返す

22

### 文脈・ルーチンの活用

新たな語彙や文型の学習は、子どもが日常的に繰り返し経験するよくなじんだ見通しのもてる場面と活動の中で行うと習得しやすくなる。



### スクリプトの活用

23

### ASD児への会話支援

- 話しを開始するときの適切な言い方を教える
- 返答する、話しに割り込む、話題を変えるタイミングについての手がかりを教える
- 共感するときの言い方のモデルを示す
- わからないときにはわからないことを相手に伝え、説明や援助を求めることを教える

トニー・アトウッド「ガイドブック アスペルガー症候群(富田真紀ほか訳)」(東京書籍)より

24

### ASD児へのSSTのテーマ

【言葉と会話】	【友人関係】
会話の始め方、続け方、終わり方、順番交代	友人の作り方
話の聞き方、傾聴	からかいやいじめへの対処
質問の仕方	適切な友人の選択
話題の選び方、続け方、変え方	友だちネットワークの拡げ方
感情表現の仕方	仲間に入る方法・抜ける方法
丁寧な言い方	他児への関心を示すこと
挨拶	他児と一緒にうまく過ごす方法
雑談	他児を助けたり励ましたりすること
交渉	活動の変更を他児に提案すること
字義通りでない言葉の理解	【適応行動】
【援助要請】	学校での適応的な行動
大人への援助の求め方	教師にとって好ましい行動
【社会的な関わり合い】	仲間にとって好ましい行動
アイコンタクト	【感情理解】
経験の共有	顔の表情
アイデアの共有	声の音調

藤野 博(2013) 学齢期の高機能自閉症スペクトラム障害児に対する社会性の支援に関する研究動向. 特殊教育研究, 51, 63-72.

25

### ソーシャルスキル・トレーニング(SST)

- **インストラクション** (言葉で説明し、教える)
- **モデリング** (手本を示す、やってみせる)
- **ロールプレイ** (やってみさせる、繰り返し練習させる)

- **フィードバックと強化**
  - ➡ よくできたところを具体的に誉める
- **日常場面での練習**
  - ➡ 日常生活の様々な場面でするように促す

26

### SST的アプローチの限界と コミュニケーション支援の新たな方向

- **般化と維持の問題**
  - とくに思春期・青年期では、「させられている」感が効果を減じているのでは？
- **トレーニングから余暇支援へ**
  - 小グループによる趣味を通じたコミュニケーション促進

27

### 趣味トーク活動

- 日戸(2010)の方法に基づいて趣味トーク活動を行った
- まず全員がテーブルを囲んで着席できるように設定した
- 子どもには自分の関心のある具体物を「見せたいもの」として持参させるように伝えた
- 趣味の時間は交代で自分の趣味について語る時間であることを説明した
- 以下の四つのマナーを視覚的な教材を用いて説明した
  - ① 人の話は最後まで聞く
  - ② 知っている話でも最後まで付き合う
  - ③ 意見・質問は話のあとにする
  - ④ 見たいときは見せてと言う」以上

日戸由刈ほか(2010) アスペルガー症候群の学齢児に対する社会参加支援の新しい方略—共通の興味を媒介とした本人同士の仲間関係形成と親のサポート体制づくり. 精神医学, 52, 1049-1056.

28

### テーブルトーク・ロールプレイング・ゲーム(TRPG)

- テーブルを囲み、紙や鉛筆・サイコロなどを使い、参加者同士の会話のやり取りで、物語を進めて行くことを楽しむゲーム
- 1人がゲームの進行役&審判役である「ゲームマスター(GM)」を担当する。GMは事前にシナリオ(物語の設定やあらすじ)を用意する。他の参加者は、ルールに従い、キャラクター(物語の登場人物)を作成し、演じることで物語に参加する。

加藤浩平「テーブルトーク・ロールプレイングゲーム (TRPG) を活用した社会的コミュニケーションの支援」(藤野博 編「発達障害のある子の社会性とコミュニケーションの支援」(金子書房)より)

29

### 会話支援におけるTRPGの利点

- 通常のSST的アプローチでは、声の大きさ、話しかけ方、会話の順番取りなどは教えやすいが、他児の発言への拡張された応答やフォローアップなどは教えにくい
- TRPGは会話そのものを楽しむゲームであり、話題の維持・発展への自発的な動機づけがあるため、遊びながらそれらが自然に促進される
- ゲームマスターはそのファシリテーター

30